

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

京都府テーマ

- I スポーツへの誇り、自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解、共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上、スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 国際理解教育の推進

スポーツ庁テーマ

- I スポーツ及びオリンピック・パラリンピックの意識や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 府立須知高等学校 】

1 実践テーマ	京都府テーマ【 I II III 】・スポーツ庁テーマ【 II III V 】
2 実施対象者	京都府立須知高等学校第1学年60名、第2学年69名、第3学年63名 計192名 近隣の小中学生及びその保護者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( 講演会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ホッケー教室 ) ② その他 ( 地域スポーツに係るボランティア活動 )
4 目標 (ねらい)	(1) スポーツの競技力向上に向け、生徒一人一人の生涯スポーツの基盤を育成する。 (2) ホッケー競技のホストタウンとして地域をあげてスポーツの活性化を図る。 (3) オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツボランティア活動を行い、地域の活性化に寄与する。
5 取組内容	(1) 全校生徒へのアスリート等による講演 ① 生徒一人一人の生涯スポーツの基盤を育成する講演会 演題 「健康学習～オリンピックパラリンピックに向けて」 講師 京都教育大学 教授 関口久志 様 日時：平成29年7月12日（水） 午前9時35分から同11時15分まで 内容 京都教育大学の関口教授から、人が幸せに生きることについて、生涯スポーツの観点から健康や性、ジェンダー等について、生徒の自己肯定感や自尊心を高められるように話をしていただいた。また、ラファエラ・シルヴァ(柔道金メダリスト)がLGBTであることを自ら明らかにしたことに触れ、オリンピックパラリンピックでは、ありのままの自分をしっかり肯定するとともに、前向きに取り組む姿を我々も学ばないといけない、という話もしていただいた。 この講演会を事前学習と位置づけた。 ② パラリンピックに向けたスポーツボランティア活動を行い地域の活性化に寄与する講演会



演題 「ハンディキャップのある人との共生について」

講師 NPO法人京都出てこいランド

神鳥基代子 様 他

日時：平成29年11月8日（水）

午後1時40分から同3時40分まで

内容 神鳥基代子さんは現在NPO法人京都出てこいランドという福祉施設に勤務されていて、様々な障害のある方々と一緒に生活されている。障害があっても、「幸せになりたい」「認められたい」という思いは、どの方にもあり、「不幸」なのではなく「不便」なだけであるということ、人権教育の視点からもお話をいただいた。

一緒に生活されている方の中には、かつてスポーツ選手として活躍されていた方もいらっしゃることも聞かせていただき、この日は「出てこいランド」を利用されている視覚障害のある方にもお話をいただいた。

この方がスポーツをされていた頃は、「障害に対する周りの目は厳しく、視覚障害がまさに障害となって、スポーツを極めるということは全く考えられない環境であったが、スポーツボランティアの方がいらっしゃるおかげで障害のあるみんながスポーツを行うことができた」とお話をいただいた。

そして、本校生徒が行っているスポーツボランティア活動についても、大変評価いただき、「今後パラリンピック出場者がこの地域から出るかもしれないね」と、生徒達の頑張りに対しても評価いただいた。



## (2) 地域スポーツ等に係るボランティア活動

### ① オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツボランティア活動を行い、地域の活性化に寄与する活動

ア 大会名 第33回全京都車いす駅伝競走大会

日 時 平成29年9月3日（日）

午前8時から午後4時頃まで

参加者 運動部員(30名)

場 所 京都府立丹波自然運動公園陸上競技場

内 容 車いすの選手の誘導補助、交通整理、給水所での給水係や救護補助等を行った。地域で行うスポーツボランティア活動に参加することで、地域の活性化に寄与することができた。



イ 大会名 京都丹波ロードレース大会

日 時 平成29年11月3日（金・祝）

午前7時30分から午後2時30分

参加者 運動部員(35名)  
場 所 京都府立丹波自然運動公園  
内 容 視覚障害者伴走の誘導補助、交通整理、給水所での給水係や救護補助等を行った。地域で行うスポーツボランティア活動に参加することで、地域の活性化に寄与することができた。



ウ 大会名 京都府立特別支援学校高等部スポーツ交流会  
日 時 平成29年10月7日(土)  
午前9時45分から午後3時20分頃まで  
参加者 運動部員(28名)

場 所 グリーンランドみずほ  
内 容 府内11校の特

別支援学校の高等部生徒が、スポーツを通して交流を深める交流会。本校の生徒はそれぞれソフトボール、卓球、卓球バレーの3種類に分かれ、競技補助員として参加した。



### (3) ホッケー競技のホストタウンとして地域をあげてスポーツの活性化を図る活動

#### ① ホッケー教室の中止

当初、平成29年10月22日(日)の須高感謝祭で、京丹波町のスポーツ少年団をはじめ、近隣の小中学生や就学前の幼児、保護者等の大人も含め200人以上の皆さんに、本校の男女ホッケー部の生徒が、優しく丁寧にホッケーを指導する、ホッケー教室を開催する予定であった。京丹波町はホッケー競技のホストタウンとして取り組んでいるが、京丹波町にある唯一の高校として、私たち高校生の果たす役割は大きいと考えこの取組を準備していた。高校生が子どもたちに、優しく丁寧に接することで、児童たちが「ホッケーをやってみたい」「あんなお兄ちゃん、お姉ちゃんになりたい」という気持ちにもつながり、本校生徒にとっても「お兄ちゃん、お姉ちゃんありがとう!」と子どもたちが言ってくれることで、自己肯定感も高まり、自己有用感の高まりもねらうことができると考え、設定していた。しかし、当日は台風のため中止になってしまったため、規模を縮小し後日行うこととした。

#### ② NHK生中継「あさいチ」に出演

本校の生徒、近隣の小中学生、保育所の幼児をはじめ保護者や町のホッケーに



関係する方で、NHKの朝の番組「あさイチ」に出演した。  
京丹波町は東京オリンピック・パラリンピックに向け、ホッケーのホームタウンとして取り組んでいる。そのことを、町のホッケー協会をはじめ、本校や小中学校の取組を紹介していただいた。

③ 小規模になったホッケー教室の開催

日時 平成29年12月16日（土）

午前9時から午後4時まで

参加者 小学生15名、中学生20名、高校生11名

場所 グリーンランドみずほ

内容 本校と中学校のホッケー部顧問がフィジカルトレーニングやメンタルトレーニングを行い、その後、ストローク練習（ブッシュ、ヒット）、ドリブル練習（相手に奪われない位置でのボールキープ、大きく振り幅を付けたキープ、そして目線を上げてのボールキープ）等、優しく丁寧に指導した。しかし、今回は経験者がほとんどであったため、6人制のゲーム（各チームに分かれての15分間ゲーム）も行うことにした。



(3) ボランティア精神を培う活動

今年度のオリンピックパラリンピックに係る事業の締めくくりとして、学校を出て、町内の清掃活動を行った。この活動を通して、私たちの町京丹波町を自らの手で綺麗にし、達成感や自己肯定感を培い、ボランティア活動することの大切さを学ばせたいと考えた。

日時 平成29年12月18日（月）

午前9時から午後4時まで

参加者 運動部員63名 生徒会役員等12名

場所 須知高等学校外

内容 須知高等学校外の半径約1～3kmあたりの地域を、各クラブごとに分かれて、清掃活動を行った。



6 主な成果

講演会では、生涯スポーツの視点、健康や人権の視点、スポーツボランティアの視点等、今回のテーマに合致した様々な視点から話をしていたので、生徒達にとって新しい発見があったり、自分の視野を広げることができるようになった。

また、様々な活動をすることで、生徒の自己肯定感や自尊感情を高め、よりよく生き、自他共に大切にし、地域を活性化させようとする機運が生まれたのではないかと感じる。

地域清掃活動中、地域の方から、「ありがとうね。」「頑張ってやって

	<p>くれているんやね。うれしいわ。」等、声をかけられ、照れている生徒の顔が忘れられない。地域の駐在所からも、「次回は私たちも手伝いたいので、言って欲しい。」と言われるなど、自分たちがやっている行動を肯定されることで、自己存在感が高まっていくことも、この事業での成果と言えるのではないかと考えている。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>2020年に行われる東京オリンピックパラリンピックに向け、スポーツに対する興味関心の向上はもとより、「マナーとおもてなしの気持ち」「スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築」を大切にしたい取組となるように工夫した。</p> <p>講演会では、生涯スポーツの基盤の育成を目指し、健康や人権の視点から、自己肯定感や自尊感情を高め、よりよく生き、自他共に大切にできるような講演になるよう講師にお願いした。</p> <p>また、スポーツ等に係るボランティア活動では、本校の生徒が今後、インクルーシブ社会の構築の担い手になるよう、様々なボランティア活動を用意し、地域との連携を図った。</p>
8 主な課題等	<p>ホッケー競技のホストタウンとしての取組をする際、10月22日が台風で中止になることを全く想定していなかったため、当初考えていた取組より小規模で、限定的なものになり、十分な活動にならなかったのが悔やまれた。中止を想定した準備をするか、または、天候等に左右されることなく、活動が出来るような取組にするのかを考えておく必要性を感じた。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>「マナーとおもてなしの心の育成」について、今後もさらに取り組んでいく必要があることから、来年度は、グローバルな視点からの「おもてなし」を目指してみたいと考えている。</p>